

都会にさらなる緑を 建築緑化各社の独自提案集



プラネット 代表取締役 大林 修一氏

建築緑化はCO2削減・集客効果などで認知度は向上しているものの、ビルオーナーにとってはコストや管理など心配事が多いのが現状である。今回は大手から新興まで、緑化業界をリードする各企業の独自システムを紹介する。

ビル内外での緑の循環を地域にも

今年7月、御社の循環型緑化システムが、経済産業省の「グリーン・サービシジング」のモデル事業に採択されました。

大林 この「グリーン・サービシジング」とは、従来のビジネスモデルと比較して高い環境負荷低減効果が期待でき、発展可能性が高くオリジナリティのある事業に対して経済産業省が認定を行うもので、当社のハイドロカルチャーによる緑化システムは以前から「グリーン・サービシジング」の事例として取り上げられておりました。今回モデル事業に採択されるにあたって、経済産業省からの支援を受けて事業の拡大を図れるとともに、当社の事業が環境配慮の観点で行政に認められることができたことと認識しております。

「このシステムの詳しい仕組み、メリットとは。大林 当社の循環型生産緑化システム「アーバングリーンカルチャーシステム」は、建築緑化に使用する植物の生産・レンタル・施工・管理・メンテナンスを取り揃え、

地産地消のまちづくりを目指す

植物を育て、1年を通して季節ごとの草花を楽しむことが、地域にできます。また、植物は循環させ、ビルの内外にとどまらず、地域の花壇などに出ることができる。樹木を育てることも可能です。当社の緑化システムは、ビルの内外にとどまらず、地域の花壇などに出ることができる。樹木を育てることも可能です。当社の緑化システムは、ビルの内外にとどまらず、地域の花壇などに出ることができる。樹木を育てることも可能です。

「丸の内オアソ」のスカイファームの管理を通過して地域の分や空気を、栄養分を蓄えながら育てています。雨水によって栄養分が流出することもなく、必要最低限の水及び肥料の使用量で栽培が可能です。御社の今後の目標を教えてください。大林 エコシティは緑あふれるまちづくりが理想です。地域環境を良くするために、ビル経営者がビル内外に緑化を行い、ビル内外に植物を生み出し、総合的な環境に配慮したエコシティづくりになると思



「丸の内オアソ」のスカイファームの管理を通過して地域の分や空気を、栄養分を蓄えながら育てています。雨水によって栄養分が流出することもなく、必要最低限の水及び肥料の使用量で栽培が可能です。御社の今後の目標を教えてください。大林 エコシティは緑あふれるまちづくりが理想です。地域環境を良くするために、ビル経営者がビル内外に緑化を行い、ビル内外に植物を生み出し、総合的な環境に配慮したエコシティづくりになると思

注目のブリス・講演

今回、不動産ソリューションズで植物を循環させることで、大林氏が講演を開き、同社は同社のアーバングリーンカルチャーシステム、カセット式生産緑化」という演題で、ビル内外の緑化について講演を行いました。大林氏は講演の中で、同社は同社のアーバングリーンカルチャーシステム、カセット式生産緑化」という演題で、ビル内外の緑化について講演を行いました。

維持するだけでは価値は守れません。メンテナンスで価値を育てる緑化があります。

ビル生産緑化

栽培する緑化が生産価値を 屋内外の循環が利用価値を

環境循環型緑化システム

株式会社プラネット Plants Network Group

www.g-planet.com www.png.co.jp/